

ひろしま県

高次脳機能センターだより

創刊号

平成21年12月1日 発行

CONTENTS

特集 高次脳機能センターの紹介

高次脳機能障害ってどんな障害？

.....②

高次脳機能センターでは、
どんな支援が受けられるの？.....③

コ・メディカルスタッフにきく.....④

～高次脳機能障害の方にどんなリハビリをしているの？～

エビデンス 脳と音楽 ♪④

利用者のページ⑤

関係機関ニュース⑥

ご利用案内⑧



利用者のページで紹介
平岡麻衣子さん作

巻頭言

発刊のご挨拶

高次脳機能センター長 丸石 正治

平成18年に高次脳機能センターが開設されて以来、長い間懸案になっておりました機関紙をようやく発刊することが出来ました。お待たせしたことを先ずお詫び申し上げます。この間、高次脳機能センターの活動も徐々に軌道にのったこともあり、創刊号を出すにはちょうど良いタイミングだったのかもしれない。

設立の際に掲げられた高次脳機能センターの理念は、「脳障害者とそのご家族が幸せに暮らせる社会を目指す」というものです。この表現には、いろいろな思いが込められています。

「社会を目指す」という表現には、医療の枠を超えた包括的な支援をするという意味と、広島県の拠点機関として社会的責任を果たそうという意味が込められています。そして、「幸せ」という言葉には、わたしたちの最も大切な願いが込められています。高次脳機能障害が少しでも改善するように最善を尽くすことは言うまでもありませんが、さらに、高次脳機能障害のリハビリテーション中であっても、日々の生活の中で幸福や喜びを感じていけるように、心（こころ）を応援し続けたいという願いです。

機関紙にはそういう思いを盛り込むべく、スタッフみんなで知恵を絞りました。わかりやすく伝えたい、親近感をもって伝えたい、読者を元気にしたい、そんな思いで創刊号が完成しました。不慣れな点や未熟な点も多々ありますが、ご笑読ください。今後、これを契機にして読者参加型の機関紙を目指したいと思えます。皆様、宜しくご指導お願い申し上げます。

高次脳機能センターの紹介

特集 1

高次脳機能障害ってどんな障害？



「高次脳機能障害」とは、どんな障害かみなさんイメージできますか？専門家のみなさんは、一言で説明できるでしょうか？

私は、高次脳機能障害という言葉を初めて聞いた時には、全く見当が付きませんでした。まずどこで息継ぎするのだろうか？「高次脳」？「高次」「脳機能」？今も一言ではとても説明ができません。しかし、少しでも分かりやすく、今から高次脳機能障害とは？というのを説明していきたいと思います。

「高次脳機能障害」は、「高次」な「脳機能」の「障害」のことです。私たちの日常生活を支える能力には、生命を支えるための基礎的な能力（規則正しく心臓を動かす、呼吸をする、体温を調節する…など）から、外界の情報をもとに自分の中で取り込んでから考えるような高次の能力まで様々なものがあります。高次の能力には、物を見て何かを判断する、必要な情報に集中する、言葉を話す、相手に情報を伝える、記憶する、計算する、計画を立てる、感情をコントロールする、相手の気持ちを理解するなど、よりよく生活するために必要なものが含まれています。

これらの日常生活にかかわる能力は、すべて脳によってコントロールされています。ですから、事故や病気によって脳が損傷を受けると、生命が危険にさらされるだけでなく、日常生活上に様々な問題が生じてきます。つ

まり、「高次脳機能障害」とは、脳の損傷によって高次の能力に問題が生じ、そのために日常生活や社会生活が困難になる障害のことをさします。

「高次脳機能障害」が理解されにくい点は、「見えない障害」「隠れた障害」であるところです。事故や病気のと、命をとりとめて、ご飯を食べたり、動けたりするようになり、やっと家に帰ったその後に問題が明らかになってくる場合があります。本人はできていると思ってなんでもやってしまい、うまくできなかったこと、思うようにいかなかったことを家族のせいにしてしまうこともあります。

一緒に住んでいるご家族は、「何か事故（や病気）の前と違うな」とは分かるのですが、どうして以前はたやすくできていたことができなくなったのか、その原因は分かりづらいのです。専門家も短時間会っただけでは、何が原因なのかということが詳しくわかるわけでは無いのです。いろいろな検査をしたり、脳の写真を見たりしながら、やっと原因を理解することが出来ます。原因が理解できれば、それに対応する支援や対処法と一緒に考えていくことができます。もし、脳の怪我や病気のおおられれば、まずは専門機関にご相談ください。一緒に「高次脳機能障害」を理解し、解決していきましょう。

良くある質問

Q1. 高次脳機能障害にはどんな症状が出る人が多いのですか？

A1. 高次脳機能障害には、具体的に以下のような症状を持っている方が多いようです。

具体的な症状	それはこの障害にあてはまるかもしれません
●ボーっとしている ●一度に2つの事ができない	→ 注意障害
●約束を忘れてしまう ●今言ったことを忘れてしまう	→ 記憶障害
●時間を守れなくなった ●計画を立てることが困難 ●仕事をやりかたそのまま放っておいてしまうことが多くなった	→ 遂行機能障害
●感情の爆発がある ●浪費がひどくなった ●みんなのいる前で不適切な発言をするようになった ●依存的になった	→ 社会的行動障害
●物が見えにくくなった ●よく行く場所の道順が分からなくなった	→ 視空間認知の障害

Q2. 認知症は高次脳機能障害と診断されないのですか？

A2. 厚生労働省の診断基準によれば、脳外傷や脳卒中などの、受傷や疾病の発症の事実が確認されているような例を、高次脳機能障害と定めています。したがって、アルツハイマー型認知症などの進行性疾患は、厚生労働省診断基準による高次脳機能障害には該当しません。

Q3. 子供に生まれつき脳の障害があるのですが、高次脳機能障害と診断されますか？

A3. A2と同様に、先天性疾患や周産期における脳損傷は、厚生労働省診断基準による高次脳機能障害には該当しません。

高次脳機能センターでは、 どんな支援が受けられるの？

広島県高次脳機能センターは、2002年から国のモデル事業に携わってきましたが、高次脳機能障害支援拠点として、2006年5月1日に県から指定されました。

当センターの特徴は、医療と福祉が連続した専門的支援です。診断評価、リハビリテーション、相談・生活支援に至るまで、高次脳機能障害に特化したサービスを連続的に実施できる体制を目指しています。

支援の流れについては次のとおりです。

I 相談

コーディネーターが、電話や面談によるご相談をお受けします（14時から16時）。ご本人やご家族が何を求めておられるのかを把握し、それに応じて診察の予約をとったり、社会資源についてご紹介したりします。

II 診察

脳神経に関する専門医が、診察をします（診察時間は9時20分から12時、事前の予約が必要です）。

III 神経心理学的評価

高次脳機能障害に関する評価を、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士がそれぞれ行います。

IV 診断と支援計画

評価結果を総合的に見て、高次脳機能障害の診断をします。

ご本人、ご家族の求めておられることと、診断結果とを照らし合わせながら、支援計画を立てます。

V リハビリ

支援計画に対して、ご本人、ご家族に同意が得られたら、通院、あるいは入院によるリハビリを開始します。

リハビリは、個別あるいはグループ、あるいは個別とグ

ループの併用で行われます。

グループリハビリは目的別に、社会適応・自己認知改善グループ（若年・壮年）、記憶障害改善グループ、感情コントロール改善グループ、模擬就労グループ、個別プログラム終了者のためのフォローアップグループ、SSTグループ（社会生活技能訓練）があります。

VI 就労、就学支援、日中活動などの支援

ご本人のおかれた社会的状況をみながら、関係機関と連携をとり、就労、就学、日中活動などの支援を行います。

具体的には、就労支援機関との連携による新規就労の支援、当センタースタッフの、関係機関への訪問による環境調整や啓発活動、あるいは、職場・学校担当者などの来院による障害理解の促進などです。

障害者自立支援法や、介護保険を使った日中活動の支援や、事業所への普及啓発活動も行っています。

VII 家族支援

ご家族はご本人の支援者である一方で、ご家族自身も支援を必要としている場合が少なくありません。当センターでは、家族会の紹介や、ご家族を対象にした勉強会などを行い、一緒に支援していけるよう努力しています。

VIII 支援の基本

脳障害の当事者やご家族は、生活のあらゆる面でつらい経験をされています。私たちは、それを理解し受け止めるよう「あなたかき」を大切にして支援していきたいと思っています。



コ・メディカルスタッフにきく

「高次脳機能障害の方にどんなリハビリをしているの？」

作業療法

作業療法では、生活の中で障がいのために難しくなった活動を再びできるように支援させていただきま
す。家庭復帰、復学や復職、新規就
労など、当事者の方が目指すゴール
は様々だと思います。それぞれの環
境の中で起こる難しさについて、う
まくいかな原因は何か、解決方法
はどんなものがあるか、個別訓練を
通し、担当作業療法士と一緒に見つ
けていきます。また、集団訓練では、
より社会に近い環境での訓練を意図
し、対人面や作業面について体験で
きる場を設定し、能力の向上や当事
者同士の関わりの中で得られる自覚
や共感を大切にしていきます。就労
支援では、あけぼのとの連携、障害
者委託訓練への参加、障害者職業能
力開発校への進路選択など、他機関
との連携を行ない、就労までサポー
トしていきます。また、家庭復帰、
復学・復職、新規就労後も、継続し
た関わりを持ち、環境が変わったこ
とで起こる問題について、本人、ご
家族を随時サポートできる体制を
作っています。

言語療法

「言語」は人間が人間らしく生活
していく上で欠かせないものだと言
われています。「言語」の役割には
いろいろありますが、その中でも「コ
ミュニケーション」という側面は心
豊かな生活に欠かせないものだと思
います。
高次脳機能障害のある方は何らか
のコミュニケーションの困難さを抱
えておられる方が多いです。また、
ご家族もコミュニケーションで困る
というお話を伺います。
言語療法では、より豊かなコミュニ
ケーションを目指してリハビリテー
ションを提供します。
リハビリテーション場面では、得
意な部分を生かしながら苦手な部分
が少しでも良くなるように個々に応
じたプログラムを用意しています。
この、担当スタッフとのやり取りそ
のものが、「コミュニケーション場面
の一つだと思っています。また、担当以
外のスタッフ、他の利用者の方達と
リハビリ室や廊下などでちよつとし
た挨拶を交わすことも、「コミュニ
ケーションを広げていくきっかけに
なると考えます。その方がコミュニ
ケーションを楽しみ、広げていける
よう援助していきます。

心理

「心理」では、ご本人、ご家族が
より良い生活が送れるようにさまざ
まな支援を行っています。

「心理」と聞くと、皆さん「カウ
ンセリング」というイメージがある
かもしれませんが、高次脳機能セン
ターでは、カウンセリングばかりで
はありません。生活のしづらさの原
因がどこにあるのかを理解するため
に検査を行ったり、より良く生活を
送ることができるようリハビリ
テーションやカウンセリングを行っ
たりしています。その中では、ご本
人のみならず、ご家族への支援も対
象となります。

相談

ご相談窓口は、私たちコーデ
ィネーターです。ご本人やご家族が抱
えておられる悩みや課題などをお聞
きすることから支援が始まります。
内容に応じて、診察やリハビリへつ
ないたり、課題解決に役立つ社会保
障のご紹介をしたり、学校や職場に
働きかけて、過ごしやすいように環
境を整えてもらったり、地域の人々
に対して、障害の理解促進を図るた
め、啓発活動を行うなどの支援をし
ています。

エビデンス

脳と音楽



ひとむかし前、世界で最も有名な科
学雑誌に、「モーツァルト効果」につ
いての論文が掲載されたことがありま
す。心理学の実験で、モーツァルトの
音楽を聴かせた学生は、知能検査で高
い数値を示したということです。その真
偽について論争が重ねられ、その後、
モーツァルト効果は脳の高揚感がもた
らすものだといふ論文も現れました。
つまり、好きなことに能動的に取り組
んでいくことで、脳の活動性が向上す
るということです。

音楽の効用は普遍的と考えられてい
ます。音楽から脳が喜びを感じる仕組
みは、他の生命現象による喜びと同じ
であることが解かっています。

また、音楽の効用は超越的でもあり
ます。すなわち、楽譜の上では単純な
記号でしかない音符が、実際に演奏し
たり聴いたりすると全く別次元の「調
べ」を生み出すように、その演奏家や
熱心な聴衆は、あらゆる神経ネット
ワークを使っているのです。

このような理論的背景もあって、最近
では認知機能に関する音楽療法が盛ん
に実施されています。

利用者のページ

当センターでリハビリをされている平岡麻衣子さんを紹介します。平岡さんは、身体の麻痺と高次脳機能障害をもっており、身体が、ピアノパラリンピックに連続出場されたり、絵本の挿絵を描かれたりといろいろな方面でご活躍中です。また、幅広い支援ネットワークを上手に使っておられます。その一端を皆様にご紹介できればと思います。

平岡麻衣子さんのプロフィール

広島県出身。小学生の時に家族と共に移ったアメリカに於いて自由でのびのびとした音楽に出会う。1988年から3年間ミシガン大学でバソロミュー教授に指導を仰ぐ。帰国後、広島音楽高校、大阪音楽大学を卒業。オーストリア・ウィーン市立音楽院に留学し、クロップフィッチ教授の下で研鑽を積む。しかし、その留学中に不慮の事故で4ヶ月間意識不明に。1年1ヶ月の入院とリハビリを経て帰国。全身に麻痺（主に右半身）が残る。その後、広島県立障害者リハビリテーションセンターおよび身体障害者療護施設エバグリーンホームでリハビリを重ね、次第に左手5本指を使ってピアノが弾けるようになる。現在、右手も少しずつ動くようになり、両手の演奏にも挑戦中。2007年10月28日「命、再び」のコンサートを皮切りに全国各地のコンサートに出演。つらいリハビリを音楽に助けられた事から、パレスチナ・ガザ地区の子供たちにピアノを贈るため、絵本「咲いていること」（2009年4月出版）の挿絵を麻痺の残る右手で描く。第1回ピアノパラリンピック（横浜）・第2回ピアノパラリンピック（バンクーバー）に出演。

現在の生活は、県リハ退院後、月、水、木曜日に理学療法を目的に身体障害者療護施設エバグリーンホームのデイサービスを受けている。火曜日は県リハで理学療法（2009年3月まで）、心理、作業療法を受け、金曜日は広島市心身障害者センターで水泳をしている。さらに毎日帰宅後時間が許す限りピアノレッスン（平日が2〜3時間）を行い、土、日曜日はコンサートなど精力的に出演。さらに毎月第3土曜は東広島地区会（県リハ高次脳機能障害グループ）で絵手紙を習っている。お母さんは「何もしていないときはない。充実した毎日を送っています」とおっしゃっているほど、忙しい毎日を過ごされています。

ピアノの先生（吉田仁美先生）からのコメント

私がピアノ教師として麻衣子さんに会ったのは、昨年の1月でした。こわばった左手と、握っている右手から出た人差し指1本を一生懸命動かしてピアノを弾いておられました。その音は、頼りなく寂しげでした。それが今は、左手は自由に、右手はしっかりと広がり、堂々として演奏ができるまでになりました。この間の彼女の努力は並大抵では有りませんでした。また、お母様も、深い愛情を持って支えておられました。人間には、努力と愛情で不可能を可能にする素晴らしい能力があることを知りました。麻衣子さんは、これからもピアニストとしてみなさんに勇気と感動を与え続けることでしょう。



ピアノの先生（藤咲真介先生）からのコメント

外科医で気功家の矢山利彦先生の本の中に『氣』についての面白い記事がありました。人間の体から『氣』がたくさん出るのは、愛を語っている時、感謝している時、新しいものをワクワクして創造している時なのだそうです。もしかしたら麻衣子さんのパワーの秘密がここにあるのかもしれないですね。日常的に、またピアノでも愛を語り、周りの方々に対しての感謝を忘れず、怖れることなく新しい挑戦をワクワクしながら楽しむ。すべて当てはまりますね。麻衣子さんの気の込もった温かい音楽によって、聴衆の皆さまの心にこれからも光が届きますように……。

絵手紙の先生（牟田隆子先生）からのコメント

5年位前から絵手紙の指導をさせて頂いているのですが、最初は形が取れない、教材とは随分違う色になる、輪郭の中に色が入らない等がございました。1年経った頃だったでしょうか？母の日のプレゼントに描いておられるカーネーションの輪郭の中に、大変美しい赤い色がピタリと収まり、素晴らしい絵手紙が出来上がりました。麻衣子さんは勿論のこと、お母様も私もあの感激を忘れることが出来ません。麻衣子さんを支えられた大勢の方々ご本人の努力が実を結び、素晴らしい絵本が出来上がりました。



ヘルパーの先生（ヘルパーステーション・イルカの和田理栄さん）からのコメント

麻衣子さんとイルカがご縁をいただいて4年近くになります。私達ヘルパーは現在、麻衣子さんの通院介助や入浴介助、移動支援を利用しているプールでのリハビリ介助などさせて頂いておられます。何に対しても前向きにトライされる麻衣子さんの姿は私達ヘルパーも見習うべきところですよ。いつも「ありがとう」です。イルカさんのお陰でよく指が動くようになっています。イルカの「ニッコ」も元気をもらっています。



エバグリーンの理学療法士（新尚史先生）からのコメント

麻衣子さんのコンサートで、あの麻痺の強かった右手が、美しい曲と共に流れるように鍵盤の上を動いているのを目の当たりにしました。その音楽に、その秘められたメッセージに、そして勇気を与えて下さる麻衣子さんの笑顔に涙したのを思い出します。私の使命は、麻衣子さんのようなchallengerが納得いくまでchallengeできる機会を提供していくことです。麻衣子さんに教えていただいたこの生きる宝を大切に、これからもchallengeしていきたいと思っています。

関係機関ニュース

家族会情報

家族会紹介

高次脳機能障害や失語症のある当事者とそのご家族の会があります。



- 脳外傷友の会広島 シエイキングハンズ
- 脳外傷友の会広島 シエイキングキッズ
- ケセラセラ
- 失語症友の会

家族会情報

脳外傷友の会第9回全国大会 inひろしまが開催されました

10月3～4日に行われた、脳外傷友の会第9回全国大会inひろしまに参加してまいりました。プログラム内容は左記の通りです。

大会スローガン…繋ぐ…時を、場を、

人々、未来のために
テーマ…「高次脳機能障害者と家族への支援普及事業」

プログラム…

3日 18:00～歓迎交流会
4日 9:30～開会式典

10:50～国の取り組みと

広島県の実績と今後

13:00～

繋ぐ…時を、場を、人々、未来のために

シンポジウム「体験から学ぶこと」

全国大会での内容や記事は、次号詳しく紹介したいと思います。お楽しみに！

勉強会情報

家族セミナーのご案内

高次脳機能センターでは、毎月2回、高次脳機能障害者やそのご家族を対象に高次脳機能障害についての学習会を開催しています。どなたでもご参加いただけます。

場所…広島県立障害者リハビリテーションセンター 医療センター2階 歩行分析室

● 脳損傷とその後遺症について
日時…11月6日(金)、11月17日(火)
14:00～15:00

* 11月17日には、家族セミナー後に、NASVA担当者より、介護料支給制度に関する説明会が開催されます。

● 福祉制度について(障害者手帳、福祉サービスの利用、介護保険、年金、補償等)
日時…12月4日(金)、12月15日(火)
14:00～15:00

● 脳損傷とその後遺症について
日時…1月8日(金)、1月19日(火)
14:00～15:00

● リハビリテーション、本人への関わりについて
日時…2月5日(金)、2月16日(火)
14:00～15:00

● 福祉制度について(障害者手帳、福祉サービスの利用、介護保険、年金、補償等)
日時…3月5日(金)、3月16日(火)
14:00～15:00

参加を希望される方は、参加申込書にご記入の上、高次脳機能センターにお申し込み下さい。当日参加も可能です。

勉強会情報

高次脳機能障害勉強会のご案内

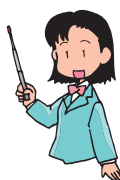
高次脳機能センターでは、毎月1回、高次脳機能障害者の支援に関わる専門スタッフを対象に、勉強会を開催しています。作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、社会福祉士など高次脳機能障害者の支援に関わる方でしたら、どなたでもご参加いただけます。

日時…毎月第四金曜日

19:00～21:00

場所…あけぼの会議室

日時や場所を変更することがありますので、初めてご参加いただく際にはお問い合わせください。



お知らせ

高次脳機能センター図書棚について

この度、高次脳機能センター相談室前に図書棚を設置しました。本の貸出をご希望の方は、センター受付までお願いします。尚、貸出期間は2週間とさせていただきます。是非、ご利用ください！

勉強会情報

学会関連情報

高次脳機能障害に関連する学術大会のお知らせです。

①最優秀論文賞受賞！

当センターの活動を紹介した「高次脳機能障害者の重症度と就労率」という論文が、2008年度リハビリテーション医学会の最優秀論文賞を受賞いたしました。

②第33回日本神経心理学会総会

日時：2009年

9月24日、25日

場所：東京ドームホテル

③第33回日本高次脳機能障害学術総会

日時：2009年

10月29日、30日

場所：ロイトン札幌

④第29回中国四国リハビリテーション医学研究会

第24回日本リハビリテーション医学会 中国四国地方会

日時：2009年12月6日

場所：（財）倉敷中央病院

突撃取材

委託訓練事業

全員が高次脳機能センターに通う患者さんという画期的な職業前訓練を行っています！「就労サポート科」というコースで、今年で3年目になります。広島障害者職業能力開発校が、東広島の「ワークカレッジ」や広島市の「パルウェーブ」という一般の職業訓練センターに委託するという形をとっています。

期間は3ヶ月で、週4日、午後半日の授業で、内容は一般的なOAソフト（エクセル・ワード）の操作方法、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルの取得を目的としたカリキュラムがあります。写真は授業風景です。若い人も年配の方も熱心に取り組んでいらつしやいます。講師陣はとても優秀でとてもわかりや

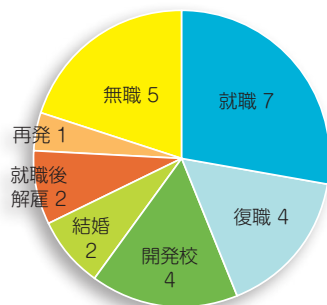


すいと評判です。

利用される方は、授業料は必要ありませんが、交通費・教材費は自己負担となります。その訓練中、週1回は当センターのスタッフが委託訓練先に訪問し、週1回は利用者の方に病院の方に外来で来てもらい、作業療法や言語療法、心理で個別やグループワークを行い、開発校・委託訓練先・高次脳センターで連携しながら、みなさんの就職に向けてお手伝いしていきます。

就職につながることももちろんですが、病院では体験できない社会経験を積むことができ、社会参加する前に自分を振り返る良い機会になっているようです。

これまでの卒業生25名のその後を図に示します。H21年8月現在新規就労7名（28%）、復職者4名（16%）、開発校本校への入学4名（16%）です。



委託訓練事業
卒業生のその後

高次脳機能障害支援普及事業第1回 支援拠点機関等全国連絡協議会報告

平成21年7月1日 国立障害者リハビリテーションセンターにおいて見出しの協議会が開催されました。

主な議題は20年度の事業報告と21年度の運営方針、事業計画です。

まず、各ブロックの統括による事業報告と今年度の事業計画が報告されました。中国ブロックは丸石中国ブロック統括により行われました。以下、今年度の事業計画を列記します。

1. 重点施策5か年計画の実行

支援サービス提供体制の均等化（全国47都道府県のうち、支援拠点機関が決まっていない県は、青森県、秋田県、栃木県、群馬県、新潟県、山梨県の6県ですが、近い年度には決まる予定だそうです。）

都道府県ごとの支援ネットワーク構築と支援技術の普及

認知リハビリテーションの技法確立と評価尺度開発（研究班に委ねる）

2. 支援コーディネーター会議の開催

年2回開催
会議を通じて意見交換と行政の実態調査の実施

スタッフの紹介

紹介されるのを遠慮がちに断られていた先生でしたが、ついにインタビュアーにに応じていただけました。まず率直にいつも疑問に思っていたことをぶつけてみました。



神経内科医
山崎 雅美 先生

イ ……インタビュアー
山 ……山崎先生

イ いつもチェック柄のブラウスですよね？
こだわりがあるのですか？

山 ないです（笑）

イ スタッフルームの先生の机にあるハムスターのぬいぐるみがいつも気になっていきます。先生のお友達ですか？

山 たんなる知り合いです。名前は知りません。知り合ったきっかけは、動物園の売店で売られていたのを見て、ちょっとはしゃいで買ってしまいました。

イ ……先生もはしゃぐことがあるんだなあ。

ハムスターの名前についてですが、先日ハムスターのぬいぐるみを落としてしまったとき、「あー、ハムちゃんか…」とつぶやいていたところを、インタビュアーは目撃しました！

イ 先生は動物好きなんですか？

山 動物好きです。実家では、りゅうくん（芝犬）を飼っています。そこそこの仲良しです。

イ 特技を教えてください。

山 ありません。

イ 先生は、料理がお得意なんですよ。自信作を教えてください。

山 あ、まあ、ありあわせのもので…。

イ お菓子も作られるんですよね？

山 お菓子もまあ、作れますけど…。

イ ……先生は控え目に言われていますが、高次脳機能センターのみなで、パウンドケーキをご馳走になったことがあります。すごくおいしかったです！

山 高次脳機能センターに来られて約半年になられますが、感想をお願いします。

イ みんなで力を合わせてっていう感じがいいんじゃないでしょうか。

山 では、最後に先生のモットーを教えてください。

山 「誠心誠意」

いつも穏やかで控え目な印象でしたが、味わいのある、そして一本芯の通った先生だなと感じました。

ご利用案内

診察は予約制です（月～金曜日9：20～12：00）。
予め電話予約されてご来院ください。

電話先 082-425-1455

（代表、内線237）

※専門のコーディネーターが対応します。
相談のみでもお受けします。

診察予約・相談受付時間は
月～金曜日14：00～16：00です。

編集後記

お待たせいたしました、ついに高次脳機能センター機関紙発行です！

発行にあたりご協力頂きました関係者のみなさまに心より感謝いたします。

創刊号ということもあって、今回はセンターからの発信号になりましたが、次号からは「読者参加型の機関紙」を目指したいと思っています。たくさんの方のアイデアをお待ちしております！

マークの由来

高次脳機能センターのマークをご存知ですか？深いグリーンから明るいイエローに色が変わっていく、あの卵型マークです。あのマークは、「医療と福祉の連続的支援を」という高次脳機能センターが目指す支援のかたちを表したものです。とても深い意味を持った卵くんなのです。

機関紙のご意見・ご感想をお聞かせください。
高次脳機能センター受付前に御意見箱を設置しております。